

## 6 南部地域活性化プログラムの取組状況について

### 1 現在の取組状況について

南部地域の活性化については、「南部地域活性化プログラム（以下「プログラム」という。）」に基づき、若者の雇用の場の確保と定住促進に向けた取組や東紀州地域の観光・産業振興などの取組を進めるとともに、総合的・横断的な事業推進を図っています。

プログラムの取組を推進するため、13市町・有識者・県で構成する「南部地域活性化推進協議会（以下「協議会」という。）」において、各種取組の進捗状況の共有や事業化の検討・協議を行うとともに、市町等と連携した課題の解決や活性化に向けた取組を進めています。

#### (1) 若者の雇用の場の確保と定住促進について

##### ① 三重県南部地域活性化基金の活用

「三重県南部地域活性化基金（以下「基金」という。）」を活用し、平成25年度は「第一次産業の担い手確保対策事業」や「幹線道路を活用した誘客促進事業」など、南部地域の課題に対応する各種取組を実施しています。なお、基金を活用した事業の詳細については、別紙1および参考資料1・2のとおりです。

##### ② 移住交流の取組

市町と連携し、移住者の受入体制の充実を図るとともに、三大都市圏において、岐阜県や長野県とも連携して移住に向けた情報発信等を行っています。

##### ア 名古屋：岐阜と三重の合同移住相談会

8月に名古屋において、岐阜県と共催で合同移住相談会を開催し、48組の参加がありました。

##### イ 大阪：ふるさと回帰フェア

9月に大阪において、認定NPO法人ふるさと回帰支援センター主催の「ふるさと回帰フェア」に出展し、52組の参加がありました。

##### ウ 東京：首都圏営業拠点「三重テラス」等における移住相談会

11月に首都圏営業拠点「三重テラス」において、長野県・岐阜県と、それぞれ共催で、移住相談会を開催しました（長野県との共催：29組参加。岐阜県との共催：13組参加）。1月には、東京ビッグサイトにおいて開催される「移住・交流&地域おこしフェア」に出展するとともに、三重県単独での移住相談会を「三重テラス」において開催します。

なお、移住相談会参加者へのフォローとして、希望者にメールマガジン「三重の田舎暮らしのススメ」を月1回程度配信するとともに、個別の移住相談にも応じています。

### ③ 集落支援のモデル的な取組

南部地域では、集落機能が弱くなっている地域が増えていることから、モデル地域を選定し、市町・大学と連携して集落機能を維持するための取組を進めています。

平成24年度から、慶應義塾大学と連携して尾鷲市早田および近隣集落において、四日市大学と連携して志摩市渡鹿野島において取組を進めており、尾鷲市では「食」という地域資源を生かして地域コミュニティを再生する取組が、志摩市ではSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した地域の魅力を発信する取組が動き始めています。

平成25年度は、尾鷲市・志摩市のモデル地域での取組に加え、三重大学と連携して、南伊勢町礪浦（さざらうら）、紀北町島勝浦、御浜町神木（このぎ）、紀宝町浅里をモデル地域として取組を進めています。

## (2) 東紀州地域の観光・産業振興の取組について

東紀州地域においては、世界遺産熊野古道を核とした自然・歴史・文化、地域資源などを生かした観光・産業振興の取組を、東紀州地域振興公社、熊野古道センターおよび紀南中核的交流施設を活用しながら進めています。

### ① 東紀州地域振興公社、熊野古道センターおよび紀南中核的交流施設を活用した取組

#### ア 東紀州地域振興公社

5月、8月、11月のイオンでの「三重県フェア」や10月の東京日本橋での「日本百街道展」等、県外での観光展・物産展に延べ124日間出展するなど熊野古道世界遺産登録10周年に向けた熊野古道伊勢路の情報発信を行っています。また、旅行商品の造成に向けて大都市圏でのエージェントセールスを行うとともに、名古屋のアンテナショップや大阪市内の空き店舗を活用した物産販売の支援を行っています。

引き続き、誘客促進を図るために熊野古道伊勢路を核とした旅行商品の企画に取り組むとともに、東紀州地域特産品の販路拡大を図るために都市圏のバイヤーとのマッチング支援等を行っていきます。

#### イ 熊野古道センター

東紀州地域の自然、歴史、文化に関する魅力ある企画展や地域と連携した交流イベントの開催等により、上半期の来館者数は対前年比23.0%増となっています。

引き続き、地域の祭りにスポットをあてた企画展や地域と連携した交流

イベント、ひのきアート等の体験教室を実施します。

#### ウ 紀南中核的交流施設

伊勢志摩の宿泊施設と連携したプランや「蘇りの地熊野の自然と歴史を堪能する連泊プラン」など魅力的な宿泊プランを設定することなどにより、上半期の宿泊者数は対前年比 21.3% 増となっています。

また、地域と連携したイベントとして、4月に熊野の物産を出展する「いろは展」を開催するとともに、月1回、小物や木工などの地域の手づくり作品を出展する「熊野里人市」<sup>くまのさとびといち</sup>を開催しています。

引き続き、熊野古道体験ツアーなど地域資源を活用した体験プログラムや地域と連携した集客交流の取組を促進します。

### ② 熊野古道世界遺産登録 10 周年に向けた取組

平成 25 年度は、神宮式年遷宮や高速道路の概成に加え、世界遺産登録 10 周年の前年にあたることから、首都圏等での熊野古道セミナーの開催や神宮来訪者等への情報発信、熊野古道伊勢路でのモデルウォーク開催など、誘客促進に向けた取組や 10 周年に向け機運を高めるための取組を進めています。

#### ア 首都圏での「熊野古道セミナー」の開催

熊野古道への関心を高めるため、三重テラスを活用し、10 月から 2 月までの毎月、「熊野古道セミナー」を開催（計 5 回）しています。

各回とも定員（30 名）を上回る申し込みがあるなど大きな関心がよせられています（第 1 回：10 月 16 日開催、参加者 51 名。第 2 回：11 月 20 日開催、参加者：44 名）。

#### イ 地域での「熊野古道セミナー」の開催

世界遺産登録 10 周年に向け地域の機運を盛り上げるとともに、地域の魅力向上を図るために東紀州地域内において「熊野古道セミナー」を開催しています。

これまで、7月に熊野市（96 名参加）、11月に紀北町（15 名参加）および尾鷲市（24 名参加）において開催し、今後、御浜町、紀宝町での開催を予定しています。

#### ウ 「熊野古道伊勢路霊場めぐりモデルウォーク」の開催

新たな古道ファン層の拡大を目指すとともに、10 周年に向けて機運を高めるため、熊野古道の峠と周辺の寺社仏閣をあわせて巡るモデルコースを新たに創設し、10 月から 11 月にかけてモデルウォークを 5 回開催したところ、延べ 163 名の参加がありました（参加者内訳：東紀州地域 44 名、東紀州地域以外の県内 41 名、県外 78 名）。

#### エ まちなかへの誘導促進

10 周年に向けて来訪者のまちなかへの誘導、周遊の促進や地域の方が地域の魅力を再認識していただくきっかけとするために、11 月に熊野市にお

いて「宝探しイベント～東紀州の新たな魅力発見～」を開催（3日間）し、地域の家族連れを中心に県内外から 539 名の参加がありました。3 月には紀北町においても同様のイベントを開催します。

オ 伊勢での情報発信

7 月から、伊勢神宮周辺の観光案内所に新たに人員を配置し、熊野古道をはじめとする観光情報の提供を行っています。

カ 東紀州地域資源魅力発信事業（基金活用事業）

熊野古道世界遺産登録 10 周年に向け、キャンペーンのロゴマーク、キャッチコピーを作成し、ポスター、ダイジェスト版ガイドブック、予告版ホームページなどにより、10 周年の機運を高めるための PR を展開していきます。

(3) 総合的・横断的な事業推進について

南部地域の活性化に向けた課題は多岐の分野にわたることから、知事を本部長とする部局横断組織である「南部地域活性化推進本部」本部員会議を開催するなど、各部局との連携を図っています。

8 月に同本部員会議を開催し、プログラムの数値目標と現状、関係部局との連携状況等について情報共有を図るとともに、南部地域の活性化に寄与する積極的な事業展開を依頼しました。

2 平成 26 年度の取組方向、主な事業について

(1) 若者の雇用の場の確保と定住促進について

① 基金の活用

関係市町等と検討・協議を重ねた結果、下記の複数市町が連携した取組等について、基金を活用して支援したいと考えています。

ア【継続】第一次産業の担い手確保対策事業

柑橘農業の担い手を確保するため、住宅および倉庫の整備や収益向上対策（品種更新、マルドリ栽培、獣害対策）等を実施

イ【継続】幹線道路を活用した誘客促進事業

情報発信拠点「城（ぐすく）」への案内看板の設置、県外での情報発信等（サニーロード）、総合観光情報誌の作成・配布、ラジオを活用した観光・イベント情報の発信等（R42 号）を実施

ウ【継続】子どもの地域学習推進事業

新たに、尾鷲高等学校において、次代の地域を担う人材育成の取組を実施

エ【一部新】熊野古道世界遺産登録 10 周年キャンペーン事業

各市町のイベントや地域資源の魅力等をきめ細やかに掲載したガイドブックなどを作成し、キャラバン活動等を行う 10 周年キャンペーン事業を実施

オ【新規】伊勢から熊野へ～熊野古道伊勢路魅力発信事業

伊勢からはじまる「熊野古道伊勢路」の魅力を発信するため、のぼりや沿線のグルメ・宿泊・お土産スポット等を掲載したマップの作成、ウォーク等のリレーイベントを実施

カ【継続】その他の事業

移住交流推進事業（田舎暮らし体験ツアー）、企業立地セミナー開催事業、人材育成推進事業、地域資源を活用した雇用創出事業 等

② 移住交流の取組および集落支援のモデル的な取組

引き続き、三大都市圏における移住相談会等を開催することとし、他県との共同開催で得たノウハウを取り入れるなど、より効果的な情報発信を行う予定です。また、空き家バンクの整備など、市町と連携した移住者の受入体制をさらに充実し、若者を含めた幅広い世代の移住・定住を促進していきたいと考えています。

集落機能を維持するための取組については、平成 25 年度から実施している 4 つの地域に加えて、新たなモデル地域において取組を実施するとともに、他地域への波及に向けてノウハウ等の蓄積・共有を図っていきます。

(2) 東紀州地域の観光・産業振興の取組について

① 東紀州地域振興公社、熊野古道センターおよび紀南中核的交流施設を活用した取組

ア 東紀州地域振興公社

世界遺産登録 10 周年を迎える平成 26 年は、熊野古道を中心とした旅行商品の造成を行うなど、東紀州地域振興公社が東紀州の観光振興、産業振興などの取組を総合的に推進する地域のコーディネーターとしての役割を果たします。

イ 熊野古道センター

地域との連携を図りながら世界遺産登録 10 周年を記念した魅力ある企画展や交流イベント等を開催することにより、情報収集、情報発信、集客交流の機能を充実させていきます。また、平成 27 年度以降の指定管理者を選定するため選定委員会を開催します。

ウ 紀南中核的交流施設

世界遺産登録 10 周年を記念した魅力的な宿泊プランの設定や地域と連携したイベントの開催等により、集客交流の機能が充実するよう支援していきます。

今後も、地域のコーディネーターである東紀州地域振興公社、集客交流拠点である熊野古道センターや紀南中核的交流施設をはじめとする関係者と連携しながら、地域資源や魅力を生かした観光振興、産業振興の取組を進めていきます。

## ② 熊野古道世界遺産登録 10 周年の取組

平成 26 年は熊野古道世界遺産登録 10 周年を迎えることから、7 月から半年間にわたって新たなファンやリピーターにつながるようなさまざまな事業を市町、地域と一体となって実施することにより、賑わいの創出と地域経済の活性化を図っていきます。

また、古道の価値を次世代に伝えていくための体制づくりや伊勢と熊野を結ぶための歩きやすい環境づくりなどに取り組むことで、10 周年を契機として、古道の保全意識やホスピタリティの向上を図り、地域の人びとが地域に愛着を持ち、主体的に活性化に取り組むことにつなげていきたいと考えています。

なお、10 周年事業の展開等については、別紙 2 のとおりです。

## (3) 総合的・横断的な事業推進について

「南部地域活性化推進本部」本部員会議での協議等を通じて、市町の課題に対応する県関係部局の事業や基金を有効に活用できるよう、調整を図っていきます。

また、地域活性化局と一体となって、基金活用事業を始めとする各種取組の着実な進捗を図るとともに、引き続き、南部地域活性化局職員及び地域活性化局職員は、積極的に市町や集落に出向き、課題を関係部局と共有し、その解決に努めることで、総合調整機能を果たしていきます。

## 3 プログラムのめざす姿と活性化に向けた「仕組み」の構築

プログラムでは、「南部地域のあらゆる世代の人びとが生まれ育った地域に住み続けたいという思いがかなうような地域社会の形成」をめざしており、このめざす姿の実現に向け、市町と連携して若者の雇用の確保や、定住の促進などの取組を進めるための「仕組み」が構築されていることを、平成 27 年度の到達目標として掲げています。

地域の活性化のためには、各市町を中心とする「地域」が主体的に取組を進めていくことが重要と考えており、協議会や基金を軸として、そのための「仕組み」を構築しているところです。

現在、基金を活用し、移住・定住の促進や交流人口を増やす取組が、様々な市町の枠組みにより主体的に動き出しています。複数市町が想いや悩みを共有し、議論を重ね連携事業を進める過程で、関係者の中で一体感の醸成やノウハウが共有されつつあります。この流れを止めることなく、熊野古道世界遺産登録 10 周年も契機として、成功事例を積み重ね、市町と目標や到達点を共有しながら、具体の取組をさらに重ねていくことで、南部地域の活性化を推進する「仕組み」づくりを進めていきたいと考えています。

## 平成25年度 南部地域活性化基金の活用状況について

単位:千円

事業名	関係市町等	取組概要	予算額
紀南農業・農村担い手対策事業 (平成24年度～)	熊野市 御浜町 紀宝町 JA三重南紀	<p>柑橘農家の担い手を確保するため、「三重南紀元気なみかんの里創生プロジェクト協議会」が実施する就業希望者向けの基盤整備や情報発信等に対し支援を行う。</p> <p>①定住促進に向けた基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住居の整備(研修用の住居の整備)</li> <li>⇒ <u>住居の確保(所有者との賃借合意) 御浜町2戸</u></li> <li>遊休農地等を活用した研修ほ場の整備(優良品種園の確保)、収益向上対策として、マルドリ栽培への取組を支援。</li> </ul> <p>②就業希望者に向けた就業フェア等での情報発信。</p> <p>③就業希望者と研修受入農家および産地とのマッチングを図るための農業体験や先に就業した方との懇談、相談会の実施。</p> <p>⇒ <u>6/3～7 短期研修1名受入。6/28 長期研修に移行(平成26年4月25日までの予定)した。</u></p> <p>⇒ <u>6月 1名のUターン者が長期研修(平成24年6月から)を経て新規に就業</u></p> <p>⇒ <u>7/20 「三重県農林漁業就業・就職フェア」出展</u></p> <p>⇒ <u>8/4 「岐阜と三重の合同移住相談会」開催</u></p> <p>【平成24年度実績】</p> <p>①定住促進に向けた基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住居の確保(就業を目指す研修生用の住居の確保・整備)</li> <li>住居の確保(所有者との賃借合意) 御浜町2戸、紀宝町2戸</li> <li>住居の整備(既存住居の改修) 熊野市5戸</li> <li>優良品種園地整備: 御浜町下市木10a みえの一番星(みえ紀南1号)</li> <li>マルドリ栽培支援: 御浜町志原8a</li> </ul> <p>②就業フェア等への参加: 11/24東京、2/16大阪、2/16津市。平成24年度就業相談実績: 19件</p> <p>③地域訪問・相談会の実施: 11/26～30(5日間。1名)</p>	1,500
漁業の担い手育成事業 (平成24年度～)	尾鷲市 志摩市	<p>漁業の担い手を育成するため、尾鷲市・志摩市における就業希望者向けの住居確保や副収入対策に対し支援を行う。</p> <p>○住居の確保策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>尾鷲市における漁業担い手確保と連携した空き家活用の取組に支援を行う。</li> <li>⇒ <u>具体的な取組支援について尾鷲市水産担当課と協議中</u></li> </ul> <p>※平成25年度漁師塾に1名参加、その後長期研修に移行し、合宿所に居住</p> <p>○副収入対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>志摩市の漁業形態では、一定の収入が得られるまでに、複数年の経験が必要なことから、副収入を得るための取組として、新たな漁業形態への展開、鮮魚等を干物に加工して販売するための冷凍設備の整備に支援を行う。</li> <li>⇒ <u>7/29 冷凍設備を整備</u></li> </ul> <p>【平成24年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>尾鷲市では、10月下旬から農林水産部の担い手育成事業「漁師塾」の取組を進め、地域外から2名が1ヶ月の長期研修に参加した。研修期間中の合宿所として空き家を活用することとし、生活に必要な備品や消耗品の整備を基金を活用して行った。以降、漁師塾に参加した1名が長期研修に移行した。(その後平成25年10月から漁師として定住している。)</li> <li>志摩市では、副収入対策としてさつまいもの栽培を行うこととし、耕作放棄地との賃貸借契約や農地法に関わる手続きを進めるとともに、基金を活用して農機具の整備や獣害対策の電気柵の設置工事を実施した。</li> </ul>	450

第一次産業の担い手確保対策事業

事業名	関係市町等	取組概要	予算額	
移住交流推進事業	空き家調査事業	尾鷲市 志摩市 大紀町	移住者の受入体制の充実を図るため、尾鷲市・志摩市・大紀町が実施する空き家の実態調査、所有者および活用意向調査に対し支援を行う。 ⇒ <<尾鷲市>>空き家実態調査等実施(10月～) ⇒ <<志摩市>>空き家実態調査の実施方法検討中 ⇒ <<大紀町>>町内の空き家データ等の整理中	1,145
	田舎暮らし体験事業	熊野市 大紀町 紀北町	地域への移住を促進するため、熊野市・大紀町・紀北町が実施する田舎暮らし体験ツアーに対し支援を行う。 ①共通取組 ・南部地域田舎暮らし体験ツアーチラシ作成 ⇒ 8/3完成 2,000部 ②個別取組 ・田舎暮らし体験ツアー(熊野市・大紀町・紀北町) ⇒ <<大紀町>> 7/27～28 大紀町田舎暮らし体験ツアーまるごと錦(5組16名参加) ⇒ <<紀北町>> 10/5～6 のんびりおいしい田舎体験(4組7名参加) 11/20～22 心とカラダが癒される食からハジメル紀北町(2組5名参加) ⇒ <<熊野市>> 11/16～17 熊野の山・林業体験(3組5名参加) 1/12～13 熊野の里・農業体験	855
幹線道路を活用した誘客促進事業	サニーロードを活用した誘客促進事業	玉城町 度会町 南伊勢町	平成25年の式年遷宮、平成26年の熊野古道世界遺産登録10周年を観光面の絶好の機会と捉え、サニーロードを活用した誘客促進を図るため、玉城町・度会町・南伊勢町が連携して行うサニーロード周辺の魅力の発信や広域的な周遊を提案する取組に対し支援を行う。 ①共通取組 ・「サニーロード沿線マップ」等の作成 ⇒ 7/1 サニーロード沿線マップ「快適☆伊勢志摩めぐり『サニーロードの旅』」(40,000部)、ノベルティ(3町ゆるきゃら ミニうちわ)(10,000部)を作成 ⇒ 10月 サニーロード沿線マップの増刷(16,000部) ・「サニーロード沿線マップ」の高速SA(土山、御在所、安濃)での配布 ⇒ 7/1～ サニーロード沿線マップを高速SAや「城(ぐすく)」等で配布 ・サニーロード周知のための案内看板設置 ⇒ 9/10設置(7箇所) ②個別取組 ・サニーロードの情報発信拠点として「城(ぐすく)」(玉城町)の整備 ⇒ 4月 観光案内コーナー等を整備し、リニューアルオープン ・3町合同による物産市「サニー市」の開催(各町で開催) ⇒ 12/15(日)・1/19(日)9:00～14:00 南伊勢町会場(南伊勢町町民文化会館前) ⇒ 2/22(土)10:00～14:00 玉城町会場(玉城町中央公民館) ⇒ 3/9(日)10:00～14:00 度会町会場(宮リバー度会パーク芝生広場) ・度会町道の駅(仮称)基本構想策定 ⇒ 12月下旬、報告書完成予定 ※これらの取組により、「城(ぐすく)」の5月(4月はリニューアル工事)～10月の来客数は対前年同期比で約5割の増、レジ客数は約7割の増となっている。	7,323



事業名	関係市町等	取組概要	予算額
幹線道路を活用した誘客促進事業 R42号沿道の誘客促進事業	大台町 大紀町 紀北町	<p>高速道路の整備が進む中、平成25年の式年遷宮、平成26年の熊野古道世界遺産登録10周年を観光面の絶好の機会と捉え、多くの観光客に高速道路を降りてR42号周辺の観光地を周遊していただけるよう、大台町・大紀町・紀北町が連携してR42号沿道の魅力を広く発信する取組に対し支援を行う。</p> <p>①共通取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各町の四季折々のイベント情報等を盛り込んだ総合案内チラシ「大台・大紀・紀北 旬感(しゅんかん)通信」の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 6/28 「旬感通信(創刊号・夏号)」を作成</li> <li>⇒ 8/30 「旬感通信(第2号・秋号)」を作成</li> <li>⇒ 11/29 「旬感通信(第3号・冬号)」を作成</li> </ul> </li> <li>総合案内チラシの高速SA(土山、御在所、安濃)や道の駅での配布及び各町の広報誌への折込み <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 「旬感通信(創刊号・夏号)」7月～</li> <li>⇒ 「旬感通信(第2号・秋号)」9月～</li> <li>⇒ 「旬感通信(第3号・冬号)」12月～</li> </ul> </li> </ul> <p>②個別取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R42号の情報発信拠点である道の駅(「奥伊勢おおだい」「紀伊長島マンボウ」「海山」)などの情報発信コーナーの充実等</li> <li>各町別R42号沿線魅力発信マップ等の作成</li> </ul>	7,332
子どもの地域学習推進事業 高校生地域人材育成事業	大台町 南伊勢町	<p>次代の地域を担う人材を育成するため、昴学園高等学校(大台町)・南伊勢高等学校(南伊勢町)において、慶應義塾大学の高校生地域人材育成の取組を取り入れ、高校生を対象に、地域との関わり方などについて自ら考え行動する力を育む教育の取組に対し支援を行う。</p> <p>⇒ 昴学園高等学校で授業実施(計3回開催:11/7、11/14、11/28)</p> <p>⇒ 南伊勢高等学校で授業実施(計2回開催:12/11、12/18)</p> <p>※昴学園高等学校については、実践の場として、大台町地内の地域住民との協議(12/11～13)、大台町長への提案(12/13)が予定されている。</p> <p>※南伊勢高等学校については、高校生の有志による「ソーシャルビジネスクラブ」を実践の場と位置づけ取組を進めていく予定である。</p>	1,251
小学生地域魅力発見事業	大紀町 大台町	<p>次代の地域を担う人材を育成するため、七保小学校(大紀町)・宮川小学校(大台町)の総合学習において、地域の魅力を伝え(地域の自然などの宝物さがし等)、地域への愛着心を育む教育の取組に対し支援を行う。</p> <p>⇒ 七保小学校で授業実施(計7回開催:5/10、6/18、9/6、10/10、11/28、1/16(予定)、2/20(予定))</p> <p>⇒ 宮川小学校で授業実施(計3回開催:6/18、10/10、11/28)</p>	933
企業立地セミナー開催事業	伊勢市 鳥羽市 志摩市 玉城町 度会町 南伊勢町	<p>伊勢志摩地域への企業誘致を促進するため、伊勢志摩地域産業活性化協議会が実施する大阪での企業立地セミナーの開催に対し支援を行う。</p> <p>(企業立地セミナー概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開催日:平成25年8月21日(水)</li> <li>場所:帝国ホテル大阪</li> <li>内容:第1部:セミナー(地域の紹介、記念講演)</li> <li>第2部:産業人交流会(立食形式、地域の食材提供)</li> </ul> <p>⇒ 8/21開催:出席者163名 ※関係市町の首長も全員出席</p>	2,275

事業名	関係市町等	取組概要	予算額
婚活支援事業	鳥羽市 熊野市 大台町 玉城町 南伊勢町 紀宝町	<p>県民の幸福実感の向上や定住促進をめざし、市町等が実施する婚活支援事業に対し支援等を行う。</p> <p>①県事業 ・婚活ポータルサイトの充実、アドバイザー派遣・婚活講座開催 ⇒平成25年4月から婚活イベント等の情報提供開始</p> <p>②市町の取組 ・伊勢志摩出逢い旅事業(鳥羽市・南伊勢町)、南部地域出逢いの架け橋事業(玉城町・大台町)、南熊トキメキ創出請負事業(熊野市・紀宝町) ⇒紀宝町：7/28開催 参加者40名 カップリング9組 ⇒大台町：8/15開催 参加者27名 カップリング7組 ⇒玉城町：11/9開催 参加者50名 カップリング5組 ⇒鳥羽市：11/9～10開催 参加者35名 カップリング5組 ⇒熊野市：11/30開催 参加者34名 カップリング5組 ⇒南伊勢町：12/21～22開催予定</p>	2,856
東紀州地域資源 魅力発信事業	尾鷲市 熊野市 紀北町 御浜町 紀宝町	<p>高速道路の延伸や平成26年の熊野古道世界遺産登録10周年を観光面の絶好の機会と捉え、地域への誘客を図るため、東紀州地域の5市町が連携して実施する地域資源を生かした情報発信に対し支援を行う。</p> <p>〔事業内容〕 ・ガイドブック作成、ホームページ製作、ポスター作成、ダイジェストチラシ作成、マスコミキャラバン実施、PRグッズ作成(のぼり他) ⇒5/31 5市町の観光担当課長で構成する「熊野古道世界遺産登録10周年事業市町実行委員会」を立ち上げ ⇒11/29 宿泊業者等を対象に10周年に向けた魅力アップセミナー及び宿泊予約サイト活用説明会を開催 ⇒12月 10周年キャンペーンのロゴマーク、キャッチコピー、ポスター、ガイドブックダイジェスト版作成、予告版HP立ち上げのぼり作成予定 ⇒1月以降 高速SA等にて、のぼり設置、ガイドブックダイジェスト版の配布によるPR。名古屋駅、難波駅周辺、観光展でのPR</p>	8,000
人材育成推進事業	13市町の 職員等	<p>集落を維持・再生していく取組など、地域住民の主体的な取組をサポートする人材を育成するため、市町職員や地域おこし協力隊等を対象にディスカッションリーダー育成講座を開催する。</p> <p>○ディスカッションリーダー育成講座 ・日程：H25.10～H26.1まで計7回開催予定 ・講師：慶應義塾大学 飯盛准教授、SFC研究所横瀬上席研究員 ⇒10/4、10/23、11/14、11/25、12/18(予定)、1/10(予定)、1/30(予定) ⇒受講者は市町職員、地域おこし協力隊等11名</p> <p>・テレビ会議システムを導入(遠隔講座) ⇒5月、県庁に整備済み</p>	1,606
地域資源を活用した雇用創出事業	南部地域の事業者	<p>新たな雇用の創出や地域経済の活性化を図るため、地域資源を活用して新しい事業展開や事業拡大を行う事業者に対し補助する。</p> <p>・事業形態：補助金(補助率：1/2) ・補助対象：県南部地域における民間企業、NPO法人等 ※起業後10～20年(起業後10年までの法人等は、雇用経済部が行う起業支援型地域雇用創造事業を活用)。 ・対象経費：新規雇用に係る直接人件費及び当該取組に係る事業費 ・事業期間：2年間(予定) ・雇用総数：3人 ⇒3事業者採択 ①丸勢水産有限会社(伊勢市)：6月から1名雇用 ②有限会社小川耕太郎百合子社(尾鷲市)：5月から1名募集開始 ③熊野漁業協同組合(熊野市)：9月から1名雇用</p>	5,250

事業名	関係市町等	取組概要	予算額
集落支援モデルの構築事業	志摩市 (平成24年度～)	<p>集落機能を維持するため、志摩市・四日市大学と連携し、志摩市渡鹿野島において集落が抱える課題に対する地域住民の主体的な取組を支援する。</p> <p>⇒ 6/17 <u>地域住民との話し合い</u></p> <p>⇒ 7/23 <u>地域住民との話し合い、フェイスブック講習会</u> フェイスブックページ「<u>ハートアイランドわたかの</u>」による情報発信</p> <p>⇒ 11/30～12/1 <u>合宿を実施</u></p> <p>⇒ 平成26年2月中旬 <u>学生と住民が共同でイベントを開催予定</u></p>	5,438
	尾鷲市 (平成24年度～)	<p>集落機能を維持するため、尾鷲市・慶應義塾大学と連携し、尾鷲市早田および近隣集落（九鬼、三木里、三木浦）において集落が抱える課題に対する地域住民の主体的な取組を支援する。4地区のそれぞれの課題に対応した「食」という地域資源を活用した取組を進めている。</p> <p>⇒ 6/14～16 <u>平成25年度の計画立案会（九鬼、早田地区）</u></p> <p>⇒ 6/28～30 <u>平成25年度の計画立案会（三木里、三木浦地区）</u></p> <p>⇒ 7～9月 <u>地域住民との話し合い（全地区）</u></p> <p>⇒ 9/16 <u>早田地区で「笑顔食堂」（弁当の販売）の実施</u> (→10/22 第2回、11/28 第3回実施)</p> <p>⇒ 10/20 <u>三木浦地区で「三木浦こいやあ」（特産品販売）出店</u> (→11/17 第2回出店)</p> <p>⇒ 11/29 <u>九鬼地区で郷土料理教室を開催</u></p> <p>⇒ <u>三木里地区で郷土料理のレシピ本を作成中（12月完成予定）</u></p> <p>⇒ <u>九鬼地区はウェブサイト開設（郷土料理の情報発信）に向けて協議中</u></p> <p>⇒ 平成26年3月 <u>最終報告会を開催予定（三重大学とジョイント）</u></p>	
	南伊勢町 紀北町 御浜町 紀宝町	<p>集落機能を維持するため、市町・三重大学と連携し、モデル地域において集落が抱える課題に対する地域住民の主体的な取組を支援する。</p> <p>&lt;南伊勢町&gt;モデル地域として、礪浦地域を選定。</p> <p>&lt;紀北町&gt;モデル地域として、島勝浦地域を選定。</p> <p>&lt;御浜町&gt;モデル地域として、神木地域を選定。</p> <p>&lt;紀宝町&gt;モデル地域として、浅里地域を選定。</p> <p>⇒ 7～8月 <u>現地打ち合わせ</u></p> <p>⇒ 8月 <u>神木地域で住民アンケートを実施</u></p> <p>⇒ 9～10月 <u>各地域で住民ヒアリングを実施</u></p> <p>⇒ 11月 <u>島勝浦地域で学生新聞を発行</u></p> <p>⇒ 11～12月 <u>各地域で合宿を予定</u></p>	
集落支援モデル課題解決事業	尾鷲市 志摩市	<p>集落支援モデルの構築事業の取組を通じて、地域住民の合意形成がなされ、地域住民が主体的に取り組む意向がある事業について、補助金により支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業形態：補助金（補助率：1/2）</li> <li>・限度額：500千円</li> <li>・補助対象：市町</li> </ul> <p>※地域住民の合意形成については協議等に時間を要することから、原則、モデル地域としての取組を開始して2年目以降の地域を対象とする。</p>	1,000



■進捗状況 1 : 「婚活支援事業」 (鳥羽市、南伊勢町、大台町、玉城町、熊野市、紀宝町)

婚活イベント等開催状況

○鳥羽市、南伊勢町「伊勢志摩出逢い旅事業」

市町名	開催日・会場	参加者	カップリング
鳥羽市	11月9日(土)～10日(日) 白浜海岸ほか	35名(男17名、女18名) 女性は愛知県、関西方面からも参加	5組
※1泊2日で体験交流の時間も盛り込み、コーディネータがカップリングを支援			
南伊勢町	12月21日～22日(予定) 愛洲の館ほか	-	-
※1泊2日で体験交流の時間も盛り込み、コーディネータがカップリングを支援			

○大台町・玉城町「南部地域出逢いの架け橋事業」

市町名	開催日・会場	参加者	カップリング
大台町	8月15日(木) 浦谷キャンプ場ほか	27名(男13名、女14名) 女性は津市や四日市市からも参加	7組
※町の夏祭りに合わせて婚活イベントを実施			
玉城町	11月9日(土) アスピア玉城	50名(男27名、女23名) 女性は津市や鳥羽市からも参加	5組
※若者の活躍の場として音楽フェスティバルを開催し、合わせて婚活イベントを開催			

○熊野市・紀宝町「南熊トキメキ創出請負事業」

市町名	開催日・会場	参加者	カップリング
熊野市	11月30日(土) 鬼ヶ城センター	34名(男17名、女17名) 女性は東紀州地域や新宮市から参加	5組
※今年オープンした鬼ヶ城センターを会場に立食パーティを開催			
紀宝町	7月28日(日) 飛雪の滝キャンプ場	40名(男20名、女20名) 女性は南牟婁郡内、熊野市のほか新宮市からも参加	9組
※大水害の被害から復興したキャンプ場を会場としてバーベキューパーティを開催			

参加者募集チラシ

(鳥羽市)

(大台町)

(紀宝町)

各市町とも工夫を凝らしてチラシを作成し、参加者を募集

## イベントの様子

【鳥羽市 11月9日(土)～10日(日)】



《開会式：一人ずつ自己紹介》



《1対1のトークタイム》



《共同作業（ジェルキャンドル作り）  
を通じて交流》



《コーディネータから  
カップリングの発表》

【玉城町 11月9日(土)】



《1対1で初顔合わせ》



《共同作業（ソーセージづくり）  
を通じて交流》

■進捗状況 2 : 「集落支援モデルの構築事業」

(尾鷲市、志摩市、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町)

○尾鷲市(慶応義塾大学) : 尾鷲市 4 地区の地域資源「食」をテーマにした取組

→昨年度のまちづくり合宿やフィールドワークなどを通じて提案された「食」をテーマにした実践取組を 4 地区それぞれで進めている。

平成 2 4 年度の取組

- ・フィールドワークや住民との意見交換会を実施
- ・各地区の課題に応じた取組を提案



《地域住民の案内で  
フィールドワークを実施》



《ワークショップで  
地域の方と意見交換》



《まちづくり合宿最終日に  
集合写真を撮影》

平成 2 5 年度の取組 [ ・「食」をテーマに 4 地区それぞれに住民主体の取組が進行中 ]

●三木浦地区 : 10/20 第 1 回「三木浦こいやあ」出店



《住民自ら地域の特産物を販売》



《婦人部の方が手作りで用意した商品》

●早田地区 : 10/22 第 2 回「笑顔食堂」実施



《「笑顔食堂」で販売した  
手作り弁当》

○志摩市（四日市大学）：フェイスブックページ「ハートアイランドわたかの」による情報発信

→四日市大学の学生の提案（SNSを活用した情報発信）を受け、住民自らがフェイスブックページを立ち上げ、島の日常風景等を住民目線で情報発信している。



《7/28 大学生によるフェイスブック講習会》



《住民が立ち上げたフェイスブックページ》

○南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町（三重大学）：住民ヒアリング等の実施

→地域住民の日常生活上の課題を把握するための住民ヒアリングを実施。多くの住民の参加を促すため、住民アンケートの実施や学生新聞の発行など、地域住民の主体的な取組につながる活動を進めている。



《御浜町神木：住民アンケートの結果発表》



《紀北町島勝浦：学生新聞の発行》



# 熊野古道世界遺産登録10周年事業の取組方向(案)

別紙2-1

## 5周年事業以降の成果と課題

### 【5周年事業の成果】

- 知名度の向上
- 来訪者の増加  
東紀州地域観光レクリエーション入込客数  
1,634千人(H21)→1,771千人(H24)(8.1%増)  
熊野古道来訪者数  
201千人(H21)→274千人(H24)(36.3%増)
- 熊野古道伊勢路をめぐるバスツアーの定着

### 【環境の変化】

- 旅行形態の変化
- 高速道路の延伸
- 神宮式年遷宮
- 地域間競争の激化

### 課題

#### 【中長期的課題】

- 地域住民(若年層)の関心が薄い
- 語り部・保存会の高齢化、後継者不足  
※実際に活動している語り部(81名)のうち70歳代12.3%、60歳代50.6%(計62.9%)
- 古道歩き環境が不十分

#### 【短期的課題】

- 地域経済への効果に対する実感が希薄
- 遠い、不便というイメージの払拭
- 高速道路延伸による滞在可能時間増加への対応
- 式年遷宮客の取り込み

注目される「東紀州」  
誘客・発信のチャンス!

## 10周年事業の展開

熊野古道の保全と活用

### 価値に気づく

文化的景観として認められ、登録された世界遺産である熊野古道の価値を、より多くの方々に知ってもらおう。  
(事業例)古道シンポジウム(オープニングイベント)

### 守り伝える

自然、生活、産業等に密接にかかわりをもつ文化遺産の特性を踏まえて、地域が一体となって保全に努め、後世に伝えていく。  
(事業例)熊野古道サポーターズクラブ(仮称)結成、語り部の養成、フィナーレイベント

### 伊勢路を結ぶ

熊野古道が世界遺産として認められた価値の本質は、伊勢から熊野までのすべての道程にあることから、熊野古道伊勢路として伝えていく。  
(事業例)熊野古道ウォーク、峠道標の更新、伊勢路図絵の改訂

来訪者の増

### キャンペーンの展開

#### 東紀州5市町による キャンペーンの実施 (県南部基金事業)

- ・期間: H26/7月~12月(H25/12月~プレPR)
- ・ポスター、ガイドブックによるキャンペーンの告知
- ・ホームページによる地域イベント等の魅力の発信
- ・高速道路等での情報発信
- ・旅行会社への情報提供 など

誘客促進

チャンスを生かした誘客  
神宮式年遷宮や高速道路の延伸、熊野古道世界遺産登録10周年といった絶好のチャンスを見逃すことなく、情報発信と誘客促進に取り組むことで、集客交流を拡大させる。  
(事業例)首都圏での記念フォーラム  
セミナー開催(東京)  
交通事業者と連携した情報発信  
旅行商品の企画・造成

地域経済への波及

来訪者の周遊性・滞在性向上  
熊野古道の峠だけでなくまちなかに観光客を誘導することで滞在時間を延ばし、観光消費を促進させ、経済波及効果を高める。  
(事業例)まちなか魅力発見イベント

## 目指すべき姿

### 【10周年事業の目指すべき成果】

- 知名度、関心度の向上
- ホスピタリティの向上
- 保全意識の向上
- 古道歩き環境整備
- 来訪者、リピーターの増加
- 集客交流の拡大
- 経済効果の拡大

○地域の人々が熊野古道をはじめとする地域の宝に愛着と誇りを持ち、主体的に地域活性化に取り組んでいる

○来訪者が再び訪れたいと感じる地域になる

地域経済が活性化され魅力的な地域となっている



# 熊野古道世界遺産登録10周年事業等の展開(案)

別紙2-2

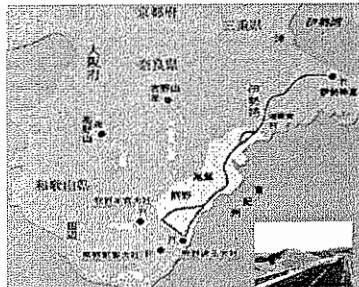
平成26年は、世界遺産登録10周年

注目される「東紀州」  
誘客・発信のチャンス!

- 伊勢～熊野の繋がりをPR!
- 10周年の機運の醸成



- 近くなる東紀州(H25年度末までに供用)
- 近畿自動車道紀勢線(勢和多気～尾鷲北)
- 熊野尾鷲道路(大泊～尾鷲南)



10周年キャンペーンの実施

集客交流の拡大と地域の取組の実践

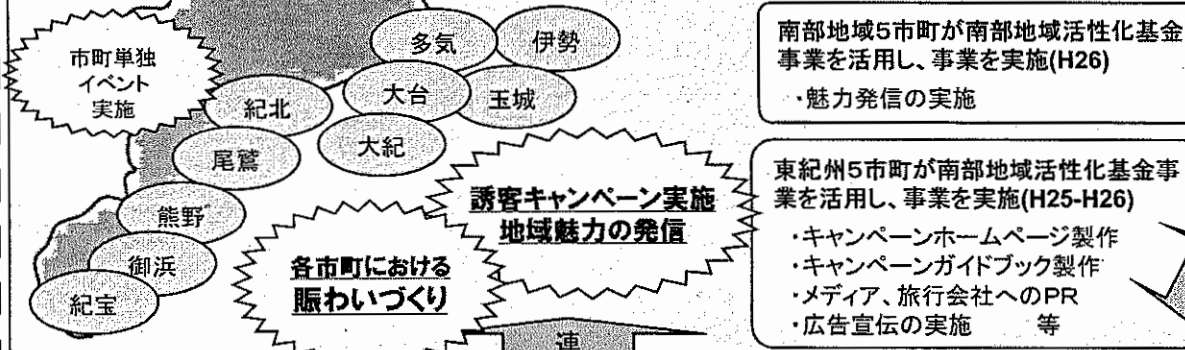
さらなる地域活性化へ

熊野古道への来訪者増

25万人(H23)→  
目標:39万人(H27)



## 市町事業



連携

効果相乗

## 熊野古道世界遺産登録10周年事業三重県実行委員会

【委員会メンバー】

尾鷲市長、熊野市長、紀北町長、御浜町長、紀宝町長、県南部地域活性化局長、  
紀北地域活性化局長、紀南地域活性化局長、紀勢国道事務所長、  
中日本高速道路㈱、㈱三重交通

部会  
参画

## 地域の関係者

(語り部、保存会、商工業者、宿泊業者、観光関係事業者等)

参画  
連携

## 県負担事業

価値に気づく

守り伝える

伊勢路を結ぶ

地域経済への波及

誘客促進

- ・オープニングイベント
- ・フィナーレイベント
- ・守り伝える仕組みの構築
- ・古道歩き環境整備
- ・熊野古道ウォーク
- ・周遊性、滞在性の向上
- ・情報発信、全国過疎シンポジウム開催 等

10周年記念イベント実施  
周遊の仕組みづくり  
古道歩き環境整備



紀伊山地の霊場と参詣道

連携

## 三重県観光キャンペーン

実はそれ、ぜんぶ三重なんです! (H25~H27)

- ・情報発信(全国向け、女性層・シニア層向け)
- ・誘客事業(周遊パスポート、伊勢から県内周遊)
- ・おもてなし向上(みえ旅案内所)

三重県の認知UP  
三重県への誘客  
周遊促進(パスポート)

効果相乗

「美し国おこし・三重」

地域づくり活動への支援  
・縁博みえ2014



## 三県連携

＜三重・奈良・和歌山＞  
「吉野・高野・熊野の国」事業

- ・3県連携によりスケールメリットを生かした世界遺産「紀伊半島の霊場と参詣道」の情報発信

世界遺産のPR  
紀伊半島への誘客

## 東紀州地域振興公社

- ・熊野古道関連事業(語り部斡旋、語り部友の会、古道客入込調査)
- ・まちづくり事業(みえ熊野学、巡回講座)
- ・観光づくり事業(体験プログラム開発、教育旅行誘致、写真展開催等)
- ・情報発信誘客事業(物産展等での発信、フィルムコミッション事業)
- ・エコツーリズム推進事業

東紀州地域内における  
受入体制の整備等

- ・熊野古道センター(10周年記念企画展等の開催)
- ・紀南中核的交流施設(記念宿泊プラン等の提供)

## 関係部局取組

- ・教育委員会、環境生活部(文化施設)等での熊野古道10周年記念企画展、セミナー等の開催

### 熊野古道世界遺産登録10周年事業スケジュール(案)

別紙2-3

		平成25年度						平成26年度								
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
市町	市町イベント等	市町独自イベントの開催														
		尾鷲 熊野市 紀北 御浜 紀宝						伊勢市、多気町、大台町、玉城町、大紀町								
市町連携 (南部活性化 基金事業)	10周年キャンペーン	予告用ホームページ立ち上げ、掲載情報収集、掲載						ホームページ展開、掲載情報収集、掲載								
		ダイジェスト版ガイドブック配布						ガイドブック配布								
		ポスター掲出(3種類)						PR実施(駅、SA、PA、百貨店等)								
熊野古道 世界遺産登録 10周年事業 三重県 実行委員会	「価値に気づく」	三重テラスでの熊野古道セミナー開催(5回) 東紀州地域内での魅力アップセミナー開催(4回)						三重テラスでの熊野古道セミナー開催 ●オープニングイベント								
	「守り伝える」	四日市、津、大阪での熊野古道セミナー開催(各1回)						熊野古道サポーターズクラブ(仮称)								
	「伊勢路を結ぶ」	伊勢路図録改定作業 モデルウォーク実施(5回)						熊野古道伊勢路ウォーク(伊勢から熊野)								
	「誘客促進」	内宮前「美し国観光ステーション」での情報提供実施						交通事業者等と連携した取組等の実施								
		神宮周辺での情報発信														
	「地域経済への波及」	魅力発見イベント(熊野市)						魅力発見イベント(東紀州5エリア)								
3県連携	吉野・高野・熊野の圏事業	首都圏での情報発信						●首都圏での記念フォーラム開催								
関係部局等	三重県観光キャンペーン	三重県観光キャンペーンの実施						三重県観光キャンペーンの実施								
	熊野古道センター							10周年記念企画展等の開催								
	紀南中核的交流施設							10周年記念宿泊プランの企画・販売等								
	東紀州地域振興公社	地域のコーディネート(地域の魅力発掘、旅行商品の企画、熊野古道語り部友の会への支援、熊野古道峠保存会への支援、販路開拓支援 等)						地域のコーディネート(地域の魅力発掘、旅行商品の企画、熊野古道語り部友の会への支援、熊野古道峠保存会への支援、販路開拓支援 等)								
	三重県総合博物館 等	●フォーラム(図書館)						企画展開催(秋)								
	「美し国おこし・三重」	ブレ縁博イベント		ブレ県民大縁会				縁博イベント						県民大縁会		



**7 審議会等の審議状況について**  
 (平成25年9月13日～平成25年11月21日)

1 審議会等の名称	第2回三重県営総合競技場等指定管理者選定委員会
2 開催年月日	平成25年10月10日
3 委員	委員長 後藤 洋子 委員 伊藤 紀美子 他2名
4 諮問事項	・三重県営総合競技場等指定管理候補者選定第2次審査（ヒアリング審査）について
5 調査審議結果	・申請者から事業計画の概要等について説明を受け、質疑応答が行われました。
6 備考	

1 審議会等の名称	第3回三重県営総合競技場等指定管理者選定委員会
2 開催年月日	平成25年10月17日
3 委員	委員長 後藤 洋子 委員 伊藤 紀美子 他3名
4 諮問事項	・三重県営総合競技場等指定管理候補者選定総合審査について
5 調査審議結果	・三重県営総合競技場他3施設における指定管理候補者について、答申がされました。
6 備考	・次回開催日：未定 ・答申時期：同日

1 審議会等の名称	平成25年度第2回三重県スポーツ推進審議会
2 開催年月日	平成25年11月15日
3 委員	会長 鶴原 清志 副会長 馬瀬 隆彦 委員 石川 郷子 他10名
4 諮問事項	・「三重県スポーツ推進条例（仮称）」のあり方について諮問。
5 調査審議結果	・「三重県スポーツ推進条例（仮称）」のあり方について、ご意見を頂きました。
6 備考	次回開催日：平成26年2月頃に予定。